

少人数学級が学力に与える影響は小さい



エビデンスは、学級規模の縮小が生徒の読解力に及ぼす影響が非常に小さいことを示唆している。

このレビューの目的は何か？

このキャンベルの系統的レビューでは、学力向上に対する学級規模の影響を検証している。このレビューは、41カ国148件の報告から得られたエビデンスをまとめたものである。メタ解析には10件の研究が含まれている。

学級規模を縮小することは、生徒の成績を向上させるひとつの方法であると考えられている。しかし、規模の大きいクラスは教育予算を抑制する。このエビデンスは、読解力への効果が小さいことを示唆している。数学には負の効果があるが、統計的に有意差はなく、一部の子どもたちが悪影響を受ける可能性は否定できない。

このレビューの内容は？

クラスの規模を大きくすることは、政策立案者が教育への支出をコントロールする際に用いる主要な変数の一つである。

しかし、教育研究界隈での多数派によるコンセンサスは、少人数学級は生徒の学力向上に効果的であるということであり、これがアメリカの多くの州、イギリス、オランダで学級規模を縮小する政策につながっている。一方、この政策は論争を生んでいる。学級規模の縮小効果はわずかであり、教育水準を向上させるためには他にもっと費用対効果の高い戦略があるとする主張もある。この政策や実践は重要な意味合いを持つにも関わらず、学級規模の大小による教育効果に関する研究の蓄積は十分ではない。

本レビューでは、学力向上に対する学級規模の影響を測定する関連研究から得られた知見を体系的に報告する。

どのような研究が含まれているのか？

対象となった研究は、幼稚園から12年生(または欧州諸国ではこれに相当する)の一般教育を受けている子どもたちである。主な焦点は、学力の測定であり、明確に定義された対照群を用いたすべての研究デザインが対象となった。

148編の論文からなる合計127件の研究が組み入れ基準を満たした。127の研究は、41の国から55の異なる集団を分析したものである。多くの研究(45件)が、1980年代にアメリカのK-3学年(8-9歳)で行われた学級規模の縮小を目的としたSTAR(Student Teacher Achievement Ratio)実験のデータを分析している。しかし、STARプログラムの4件を含む10件の研究しかメタ解析に組み込むことができなかった。



このエビデンスはどれぐらい最新のものか？

レビュー作成者は、2017年2月までに公開された研究を調査している。このレビューは2018年10月に発表された。

キャンベル共同計画とは何か？

キャンベル共同計画とは、系統的レビューを公表する、国際的、任意的、非営利的な研究ネットワークである。本組織は、社会科学や行動科学の領域における取り組みのエビデンスを要約し、その質を評価している。本組織の目的は、人々のより良い選択とより良い政策決定を支援することである。

この要約について

この要約は、Howard White (Campbell Collaboration)がTrine Filges著、『the Campbell Systematic Review 2018:10 “Small class sizes for improving student achievement in primary and secondary schools” Christoffer Scavenius Sonne-Schmidt, Bjørn Christian Viinholt Nielsen (DOI 10.4073/csr.2018:10)』にもとづいて作成したものである。Tanya Kristiansen (Campbell Collaboration)がこの要約の再デザインおよび編集をした。この要約の作成のためのアメリカ研究機関からの財政支援に感謝の意を表す。



このレビューの主な結果は何ですか？

非STAR研究では、読解の一次研究の効果量はほぼゼロに近いが、加重平均は正で統計的に有意であった。数学の主要研究の効果量の方向性にはいくつかの矛盾があり、加重平均効果は負で統計的に有意ではない。

STARの結果はより肯定的であるが、全体的な所見を変えるものではない。STARデータを分析した研究から報告されたすべての結果は、読解と数学の両方でクラス規模が小さくなることによる正の効果を示しているが、平均的な効果は小さい。

このレビューの知見は何を意味するのか？

学級規模の縮小が生徒の読解力に与える影響は非常に小さい。しかし、いくつかのエビデンスはある。数学の成績に有意差はなかったが、平均点は低く、一部の生徒に悪影響を及ぼす可能性は否定できない。

全体的な読解力への効果は53%の確率で、規模の小さい学級の集団から無作為に選択された生徒の成績が、規模の大きい学級の比較集団から無作為に選択された学生の成績よりも良いことを示している。これは非常に小さな効果である。

学級規模の縮小にはコストがかかる。利用可能なエビデンスは、大規模な学級と比較して小規模な学級の効果はない、もしくは非常に小さな効果しかないことを示している。一部の生徒にとって少人数学級は逆効果になる可能性も否定できない。資金をどこに配分するのが最良であるのかを決定するために、学級規模と達成度の関係を十分に考察することが重要である。